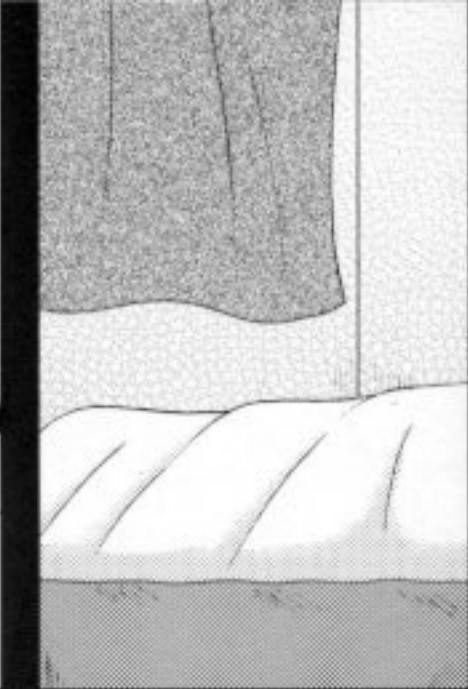


もしあき

もし秋子さんが祐一の隠してた
官能小説を読んだら





んんっ♡
「ご…ごんごん」
ダメなのよ…

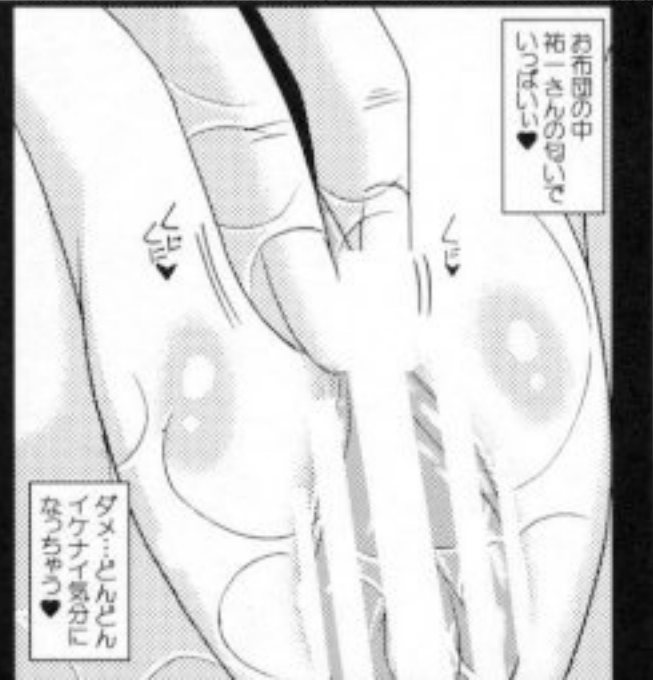


あ…朝から…
それも…
祐一さんの部屋で
一人エッチなんで…



指…止まら
ない♡♡

んんっ♡
気持ちいい



お布団の中
祐一さんの匂いで
気持ちいい♡♡

ダメ…とんとん
イクナイ気分
なっちゃう♡

祐一さん
たら…
「ああ、いいわ祐君のおチンポ」
秋子は若い肉棒を食るように淫らに腰を
くねらせる。
「ああ、あ…秋子さんのオマンコ、僕のチン
ポにねっとりと絡み付いてきて…これが
セックスなんだねっ」
股間から生まれてくる初
いやらしい本を
隠してるなんて…
感覚に少年は酔いしれる。

話は…
十数分ほど前に
さかのぼります



もう…
祐一さんたら

お洗濯も
こんなに
溜め込んで



あつっ

枕元…
何かしら？



文庫本ね

祐一さん
どんな本を
読んでるのかしら

秋子は和式便器で用を足すように祐の顔に跨るとその濡れそぼった秘所を指でくつろげると祐一の口に押し付ける。

「さあ祐くん、叔母さんのオマンコなめて。うふふ、上手にペロペロ出来たらご褒美を上げる。」

「ご褒美…」

少年はその甘美な響きにゴクリと唾を飲み込むと目の前で蜜を滴らせて雄を誘う秘裂に舌を伸ばす。

「あん」

弾力ある舌先が秘裂に触れると思わず甘い吐息が漏れてしまふ。そして少年の舌が軟体動物のように秘裂に沿って這い回るとその熟れた花卉が徐々に花開いていく。

「ああん、い…いいわ祐くん。凄く上手よ」

秋子は祐の顔に雌蜜を塗りつけるように腰をくねらせる。

秋子の嬌声に気を良くしたのか

遠慮がちだった舌使いが

大胆になっていく。

「あつ…ああつ、すごい。」

祐くんたらどこでこんなエッチな舌使いを覚えたたのかしら」

秋子も甥の少年に秘所を舐めさせるという背徳的な状況にその身体を熱く燃え上がらせていく。

「はあん、祐くんのペロペロが凄く上手だから…叔母さんも祐くんにご褒美上げたくなくてきちゃったわ」

「ご褒美と言う言葉に反応したのか祐の舌使いが更に激しくなっていく。」

「やあん、そんなに焦らなくていいから…うふふ、叔母さんに祐くんのオチンチン見せて」



これって



やだ…
やだ…

カ…官能小説って
奴ですよね

やだ…この本の
女の人の名前

秋子は少年の若い肉竿にその細い指を絡めるとゆっくりと、優しく上下に扱き始める…

「あつ…秋子さんっ」
初めて女性に触れられた甘美な刺激

に上擦った声を上げる祐。
「やだ、祐くんたら女の子みたいなの声出しちゃって」

私と同じ
じゃない

「叔母の誘惑」って…
祐一さんこんな本を
読んで…



わ…私のコトも…
こないやらしい目で
見ているのかしら？

気が付くと私は
小股から目が
離せなくなり...



本の中の
秋子と自分を...
重ねていました...

あ...
秋子ちゃん...

「お前さん
と秋子ちゃん
が似てる」

祐一さんが
私の下着を盗んで
オナニーしてたなんて...
おぼさん
ショックだわ



あ...！...
18歳は...

ムムムム

こんなイケナイ子には
キツイお仕置き
しないとダメね



オナチンこんぞに
大きくして
何がダメなのかしら？

おんちん



あらあら
オナチンはまだ
大きくなるわ

わかってるの？
これはお仕置き
なのよ

「お前さん
と秋子ちゃん
が似てる」

うふふ
私がいいって
言うまで射撃しちゃう
いけませんよ

ムムムム

でも...
見れば見るほど
立派なおチンポ...

祐一さんが
こんなに豪華なおチンポを
持ってたなんて♡

可愛らしい声
出しちゃって
おチンポ
ペロペロされるの
初めて?

んん...
んん...
んん...



この先
このおチンポで...

沢山の女性を
啼かせていくのぉ♡



うふふ♡
それは楽しいぞうね

いっほい可愛い声
聞かせて下さいお♡

あつ...秋子ちゃん♡
それなに楽しく
舌を動かされたらあ♡



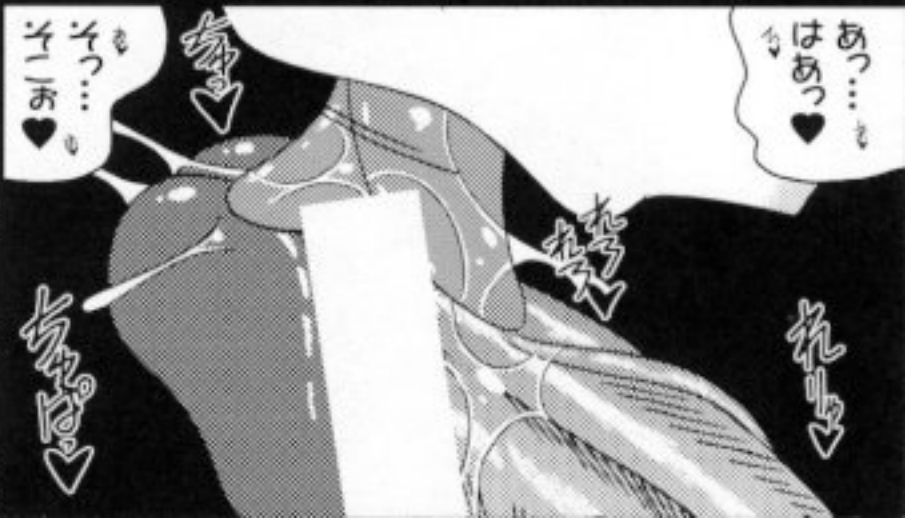
はあ♡

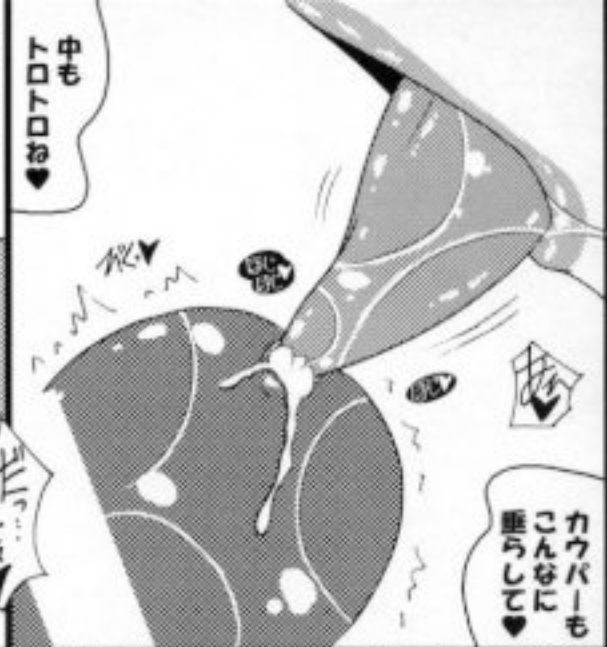
あつ...
はあ♡

そっ...
そっ...♡

あらあら
まだ舌で優しく
ペロペロしてる
だけですま♡

今からそんなんじゃ...
これからする事に
耐えられるのかしら♡





ん

ん

ん

ああん
きりが無いわ

中
おろろろ

カウパーも
こんなに
腫らして

そんな
激し過ぎっ

はっ
ダメです
秋子ナニっ!

勝手に出したら
お仕置きですよ

男の子でし
我慢なさい

もっもっ
ダメです

ん



あー
あーそんな
あー

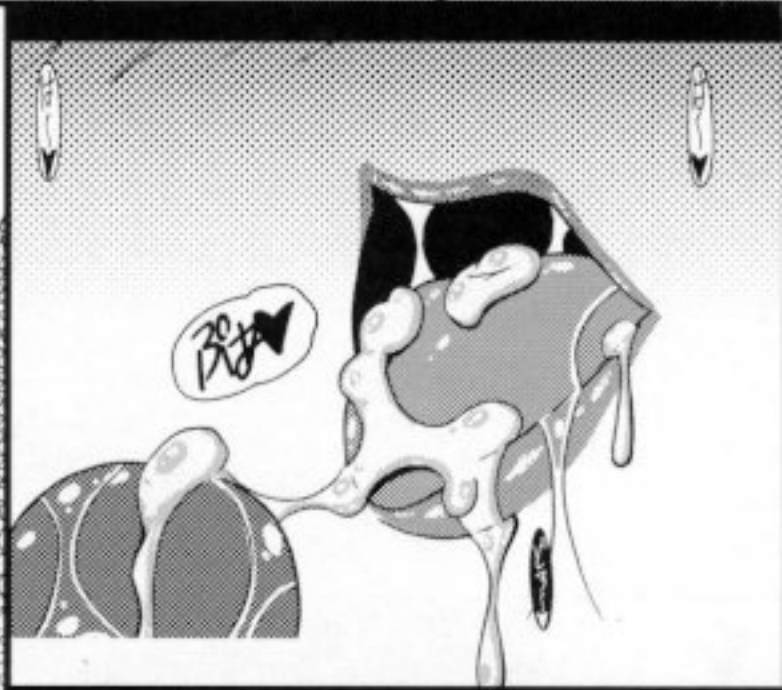
おっぱい



でも...
勝手に田んぼ
お仕度か
言いきらぬ

今日から私が
祐一さんの射撃管理
しますから...
私の許可なく
オナニーしたら
いけませんよ

あ...
それなあ...



あー



チンポミルク
コトコトコト

うひゃあ
チンポミルク
きつたかきう



アナルを舌で舐られて
エロチな高出しちやうて
祐一さんで
本当アナルお♡

ちゅ...それな
ちびゅ...

あら違ふの?
オチンボもこんなに
ガキガキにしながら
否定されてもね♡



あ...あ...
あ...アナル...

こんな相手
恥ずかしい...



アナル...
言っ...

ちびゅ...
アナル...
ちびゅ...
ちびゅ...
ちびゅ...

あ...
ちびゅ...

ちびゅ...
ちびゅ...

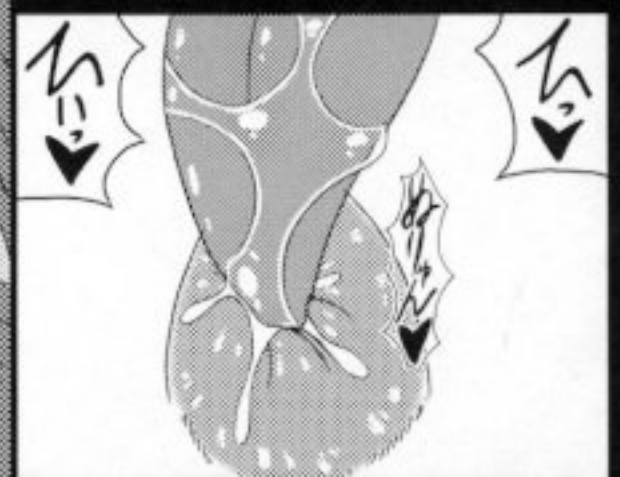


アナル...
祐一さん

祐一さんの
アナルが...
奇み...
アナル...

ちゅ...
ちゅ...

ちゅ...
ちゅ...



ちゅ...
ちゅ...

ちゅ...
ちゅ...

ちゅ...
ちゅ...



あう...おひいも
子こホモらめえ

いんちん

いんちん

しゃ

しゃ

いんちん

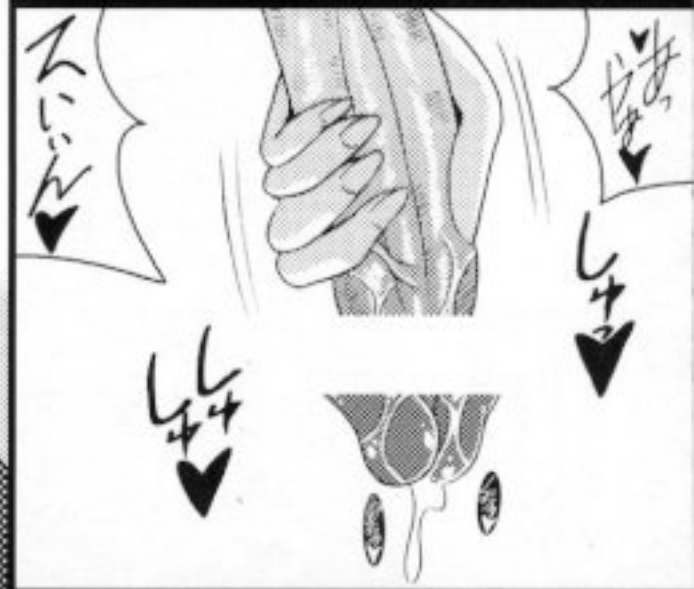
あ...あ...あ...
あ...あ...あ...
あ...あ...あ...



いんちん

いんちん

いんちん



いんちん

いんちん

いんちん

いんちん



いんちん
いんちん

うふふ
これからはお尻
だけでイケちゃう
勝てあげますお

もーモ
許さな



いんちん
いんちん

いんちん

いんちん

いんちん

いんちん

いんちん

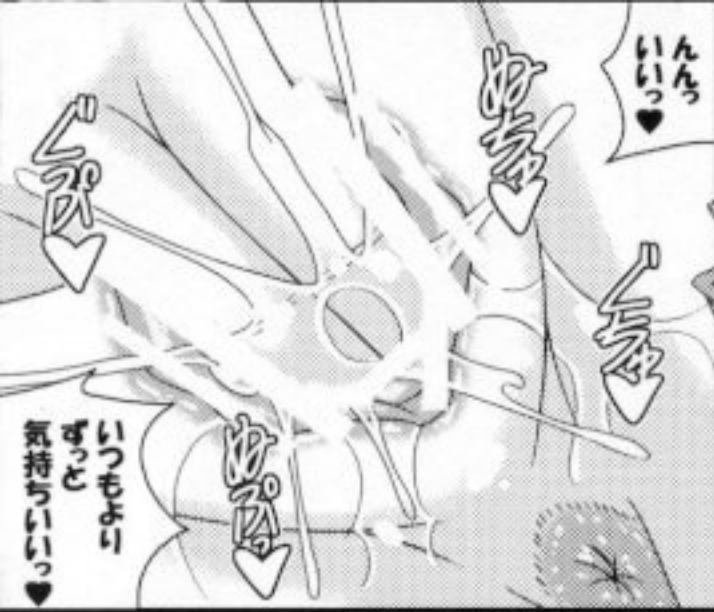
いんちん

いんちん

いんちん

いんちん

いんちん



はあ...嬉しい...
こんな「ト」で
「ト」の♡

んんん
いっ♡

ゆゆゆ

ゆゆゆ

いっ♡
あひ♡
お持ちいっ♡



はあ♡
ほっ...嬉しい...

私もオチンポ
欲しい♡♡

だめよ
こんなの...
許されないわ♡



「ト」

えっ?



祐一さんの
童貞オチンポ♡

秋子の
オマンコ
頂戴♡♡

ゆゆゆ

ゆゆゆ

んんん

んんん



やあ...
言わせないでよ

魅目...
来ないで!

その本...俺のお気に入り
なんですけど
秋子さんも気に入って
くれたみたいですね

それにしても
秋子さん...
結構激しいんですね

おん...
じつは口癖として
見いっちゃいましたよ



ゆっ...祐一さん
どうして?

財布忘れて
慌てて戻って
きたんですね...

部屋のドアが開いて...
中から変な声が
聞こえたから
覗いてみたら...



まあ俺も
無理矢理するのは
嫌だから秋子さん
次第ですけど

あま...

トクニ...

あ...
そんな!

トクニ...

ああ...
祐一さんの凄く
大きくて硬い!

今こんなもの
見せられたら...
私ち我慢出来ない



おかげで俺のも
こんなになっちゃい
ましたよ

やあ...
さんの
出さないで

あ...
♡

どうですか
秋子さん
俺のチンポ

小説の主人公
にも負けてないと
思うけど

あ...
だめよ

あ...
♡



「このおっぱいが
痒くて来るとか
たこがけり出来るとか」

「あんなに
痒いんだ」

おっぱい

ももみ

「このおっぱい
引寄せないのね...」

「私...祐一さん
言われるがままに
学校に連絡して...」



「どうして
眠るの？」

「今日は学校の方
休ませ
いた方がいいよ」



「はい
そうです...」

♡



「んんん...
し...舌舐めて
落ちやうめ...」

「ああ...私...
祐一さんと
キスして...」

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ



「ももみ...」

「秋子さんが
面白い俺を
優しリード
してさ...」

んんん!



あぁっ
そんなとこ
舐めちゃう...
汚いわ...

そんなとこ
ないよ

ふん♥
発情した女の
味がするよ

やあん...
祐一さんの
意地悪



凄く軟らかくて
気持ちいい♥

秋子さんのおっぱい
大きいから両方
いっぺんに舐められるね♥



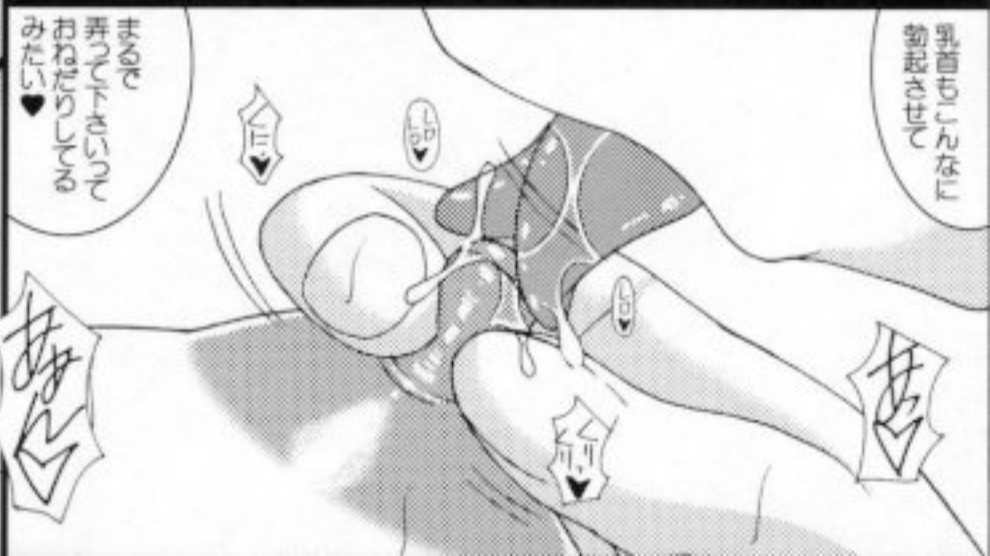
はぁ♥
これが夢にまで
見た秋子さんの
おっぱい

やあん...

ぞ...そんな
見つめられたら...

もみ♥

もみ♥



乳輪が「ん」
動揺させて

おっぱい
を握ると
おっぱいの
みたく...

あ♥

おめ♥
祐一さんの
おっぱい
舐めると...

じ...自分で
舐めると
いいの♥



そんな「オマン」舐めるの？

「...これが、秋子さんの...女の人のオマン」
「なんですね」

「あ...」

「そんな「オマン」舐めるの？」

「愛液でグチュグチュ、濡れ光って、さくさく、さわいやすいよ」



「ひゃっん...ぞ...ソクソク...しちゃう」

「れろっ」



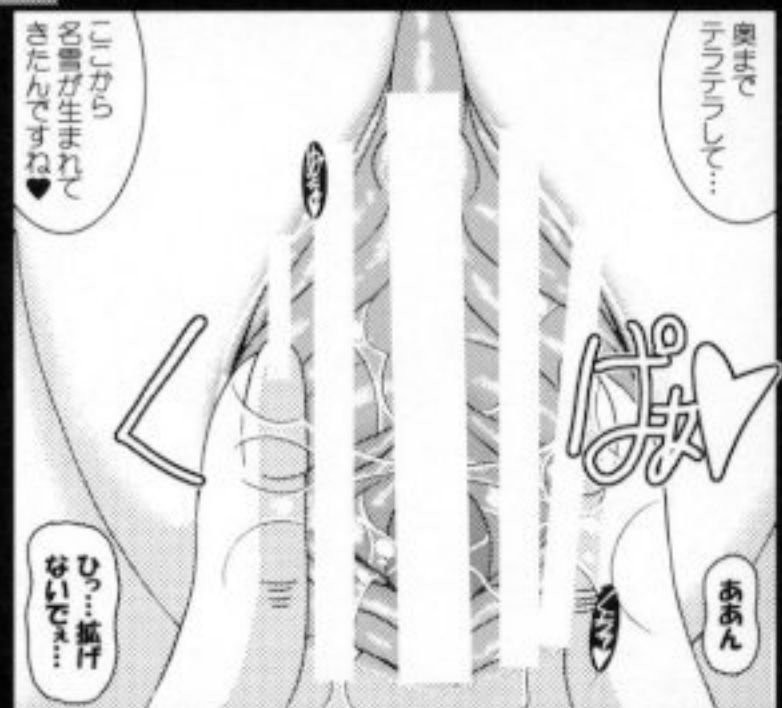
「秋子さんのオマン」
「エッチなお汁が次から次に溢れてきて」

「はあん...だ...だ...」

「ひろっ...さ...さ...グリグリらめ」

「ビクン」

「舐めても舐めても、さりがいいよ」



「奥まで、テラテラして...」

「...から、名指が生まれてきたんですね」

「ひろ...舐けな...」

「ああん」



「はあん」

「れろっ」

「んん」

俺なんかの
愛撫でこんなに
悶えて

秋子さんも
潮まっただん
ですわ♥

ほいっ
こっぴつめして
どう 俺のチンポ？
秋子さんのおへそ位
まであるでしょ♥

これで秋子さんの
オマンコ突きまわすの
気持ちいいかな♥

ニ…ニ…
って♥

ラ…
ライウ

今日は俺のチンポで
おもしろいスツキリ
して下さいね♥

あっ…ああ♥
でも…

やっ…やだ…
祐一さんの…

さっきよりも
大きくなつて…

やあ…！
こんなところまで
オチンポ挿れて…

こ…こんな
モノ入れたら…
私どうなっちゃうの!?

しゅわ

ゆわ

そう…
そのまま腰を
降ろして
ふんふん♥
あの本みたいに
俺の重負優しく
響つて下さいね

自分から
祐一さんのオチンポ
入れるなんて…

ああ…しちやつの
私…本当に祐一さんと
しちやつの!?

はき

はき



な...中が... 祐一さんので いっぱい詰まっ...

こ...こんなの ダメ♥

んん♥

んん♥



はぁ
はぁ
はぁ

はる
はる
はる



んんん
まっ...
待ってっ...

ダメです

俺も気持ちよく
なりたいたですからね



はぁ
はぁ
はぁ

はる
はる
はる



んんん
ぞっ...そんな
奥ばかり突いちゃ

らっ...らっ
はる
はる
はる

はる
はる
はる

俺の童貞チンポ
そんなに良いんだ

いっ...
いっ...
いっ...
いっ...

オチンポ
いいっ

やあ...
祐一さんの
意地悪

あゝあ
清楚だと思ってた
秋子さんがこんな
いやらしい人だった
なんてシロクワだな

もも

あゝあ
あゝあ
あゝあ

もも

もも

ぐちゃ

あゝあ

あゝあ

あゝあ

あゝあ

祐一さんの
嬉しいオチンポが
いけないのよ

あゝあ

あゝあ

あゝあ

あゝあ

あれ？
もしかして
童貞チンポで
イッちゃうのよ

あゝあ

秋子は祐一さんの
童貞チンポで
イカされちゃうのよ

あゝあ

あゝあ

いいですよ
一緒にイキ
ましよう



おっ
おっ
おっ
おっ

秋子さん「
たこひり味わって
もらいますからね♥」

おっ
おっ
おっ

これで終わりじゃ
ないですよ
まだまだガチガチの
若い童貞チンポ

おっ
おっ

私の...
悪夢のような一日は
まだ終わりません
でした...

そっ...そんなし
見ないで...

あんな
可愛らしいお胸...
やっぱり生で見る
裸子ブロンは
迫力が違いますね

秋子さんのお尻...
エロい味にして
濃く美味しい♡

まずは...
ご飯の前に
秋子さんを締め腹い
しちやわっ♡

「お尻の
お尻の
お尻の
お尻の
お尻の」

は
は
は

しゅわ
しゅわ

しゅわ
しゅわ

しゅわ
しゅわ

ああん...
やあっ♡

れろろ



はい
あーん

やあ
そんな下から
ズラズラされたらあ...

やあ
く...口から
響れちゃいます

デザートは...
秋子さんの子宮「
たつひりミルクを
こ馳走してあげますね

口移しで
食べる「飯は
格別だね...

これからは
二人きりの時は
こうしようね

えんち

そんなっ
ああっ

わ...私も
イクっ

ズツ

ズツ



お風呂の音...

じゅわん...
じゅわん...
じゅわん...

ああ...
いいよ
秋子さん

「お風呂の音...」
おかないとね

わっ...
わっ...
わっ...

しゅわん

あわわ

あわわ

ふんふん...
お尻も洗って
たいてい...
お風呂の音...
おかないとね

あわわ

じゃあ次は
チンポ洗ってよ
もちろんその
大きなおっぱい
でね

はき
い...
秋子さん

はき

はき

あわわ

あわわ

あわわ



最後は
俺のチンポを舐めろ...

秋子さんの
オムツの裏側に
洗ってあげようかな

ご...ごんを
舐めたい

犬の交尾みたいで
興奮するでしょ

はひっ
お...奥まで
くるっ

はひっ
イッ...イッ

ほらほら
メス犬の腰に
後から突かれて
イクんだろ

アッ
アッ

アッ
アッ

ドク
ドク
ドク

イクっ
イクっ

ドク
ドク

はひっ

そして私の部屋「場所を移した後も…」

そっ…
そんなっ
はあん♡

彼れを知らない
和一さんの若い肉体は
徐々に私を犯しました

せ…激しく
しないでっ♡



秋子さんのベッド
大きいからセックス
しやすい♡

「はなはな
かみかみ」
の尻を♡



イクッ♡イクッ♡

イクッ♡



はなはな
かみかみ♡

いっ…今
イヤてるから
ズンズン
しないでっ♡



秋子さんの「オマン」
俺のチンポに馴染んで
きましたね♡
どうですか？
秋子さんちも知らない
でしょ♡

はひい♡
すっ…素晴らしい
こっ…こんなの
知らない♡

愛してるよ
秋子♥



秋子のオマンコも
俺のを越して
食い締めちゃうぞ♥



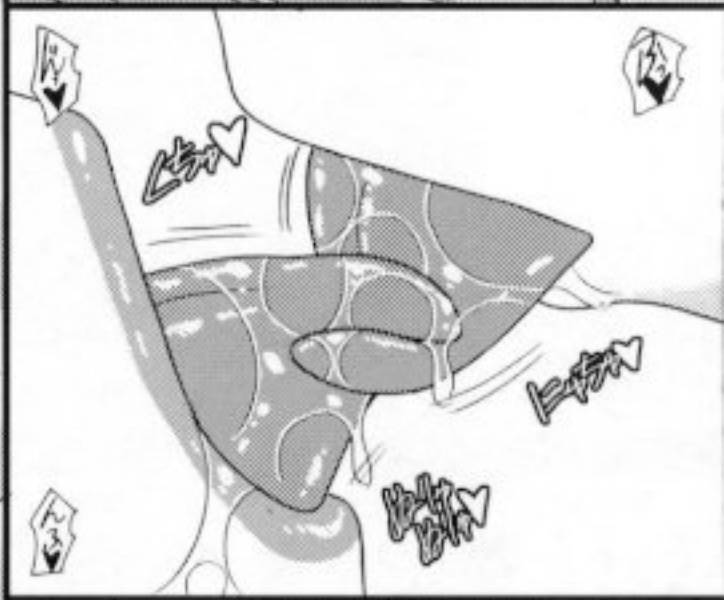
そんな「
若いチンポ
美味しいんですか♥

ひるお
ないお♥

ギニツ

祐一さんの中では...
私は祐一さんの女房
をわけてしまいたいの...

祐一さん...
僕のオマンコを
越すぞ...



あつ
秋子っ!

いいよ
秋子っ!

あ♥ぎ
ゆっ...祐一さんっ
私...せうっ♥

いいよ
最後だから
秋子の中身は
あげるぞ♥



えいん
くっくっくっ
おっキーの
ギニツ

ギニツ



ピュッ♡

イイイイイイ♡
林檎♡

スト♡

スト♡

スト♡

スト♡

スト♡

スト♡

スト♡

は♡

名前が書いてある
の紙が貼ってある
扉の裏の紙が

さあ♡
後回し
できるかな?

あ…秋子
壊れちゃうっ

そ…そんな…



Presented
by
紀霊なお姉さん